

第1回 平塚市総合計画審議会

議事録

日時 令和元年7月24日(水) 14時30分～16時40分

場所 平塚市中央公民館 3階 大会議室

出席者 18名

小崎委員(会長)、田中委員(副会長)、水谷委員、成瀬委員、常盤委員、中村委員、鈴木委員、秋山委員、宮崎委員、近田委員、森蔭委員、藤井委員、森委員、米村委員、出村委員、佐藤委員、相原委員、丸山委員

市出席者 1名

事務局 6名

傍聴者 0名

開会

- 1 委嘱状交付
- 2 市長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 議事

(1) 会長及び副会長の選出について

【事務局】会長、副会長については平塚市総合計画審議会条例第4条の規定に基づき、互選となっている。御意見等があれば、お願いしたい。

【委員】(事務局一任の声)

【事務局】事務局としては、総合計画は様々な分野から成る計画なので、幅広い経験と知識を有していただける、東海大学政治経済学部経済学科教授の小崎委員に会長を、神奈川大学経営学部国際経営学科教授の田中委員に副会長をお願いしたいと思うが、いかがか。

【委員】(異議なしの声)

【事務局】それでは、会長に議長をお願いし、以後の進行は会長をお願いする。

- (2) 平塚市総合計画の中間見直しについて
- (3) 人口ビジョンと総合戦略の見直し方針について
- (4) 策定(改訂)に当たって踏まえるべき事項について
- (5) 土地利用の考え方について
- (6) 平塚市総合計画の振り返りについて
- (7) 人口の将来推計及び将来展望について
- (8) 分野別施策の調書について
- (9) 現行の重点施策について

【事務局】(上記8点について、資料に基づき説明した。)

【会長】事務局から資料の説明があった。3分程度で各委員から意見を伺いたい。

【委員】(振り返りでの評価について) A評価、順調という評価が多く、適切な目標設定をして、進んでいると思われる。その中で、(重点施策の)「安心して子育てができる環境をつくる」が全てC評価となっていることが気になったが、色々な対策が記載されているので、今後、変更されていくと思っている。分野別施策でも、子どもの学ぶ環境については全てA評価だが、不登校やいじめについて、C評価となっている。スポーツを楽しむ環境づくりに関する施策においても、成果指標の評価がB評価及びD評価となっている。このことも今後の取組方針が記載されているので、改善を期待する。これは計画に入れるのは難しいかもしれないが、教育の問題でも、スポーツを広めるにしても人材が必要である。場やハードがあっても、ソフトの部分でどうやって対応していくのかが重要である。

また、市長の約束である中学校完全給食について、明確に記載されているため、着実に進めて欲しい。

【委員】農地について、担い手不足による荒廃が大きな問題となっている。近年、非農家が農地を相続することが増え、その多くが荒廃地となっている。荒廃地の増加は有害鳥獣の増加にもつながるので、草刈りができなくなった農地の草刈りを農業委員会が委託事業で行うなど、荒廃地、遊休農地を少しでも減らす努力をしている。

【委員】平塚青年会議所でもSDGsに取り組んでいる。あらゆる分野にSDGsは関わってくる。未来に責任を持つ立場として、先達と若者をつなぐ世代として、総合計画にSDGsがどのように位置づけられるか注目していきたい。

【委員】分野別施策調書に、二次救急や子どもの対策は色々と記載されているが、市から委託されている休日・夜間急患診療所といった一次救急について、その記載がない。

また、(分野別施策調書に、)「政策的医療を担う公立病院として」とあるが、「政策医療」という用語は国で示しているものの、「政策的医療」という用語は国ではなく、自治体で作った用語であり、何を指しているかが分からない。不採算医療を公立病院だからやっていると見えてしまう。ここでいう政策医療は平塚市としてどのようなものをしっかりと示すべきである。

(分野別施策調書の)「取組方針」について、他の箇所では「進めます。」とか「推進します。」といった力強い表現となっているが、一部「維持することに努めます。」といった表現となっており、力を入れていくとっておきながら、現実に見合っていないように思えるため、市としてしっかりと軸を定めて、進めていくべきである。

また、アンケート調査について、平塚市が選ばれるためには、平塚市に住んでいない人を対象に、色々な自治体を挙げてどこに住みたいかを聞いて、平塚市はその中で何番であったか、何が足りないのかを洗い出していく方が良いのではないかと思う。

【委員】自治会加入率について、指標では「C評価」となっており、実際に加入率が減少傾向にあるのも事実であるが、平塚市自治会連絡協議会としては加入率には何ら拘っていない。現在、平塚市は75～76%の加入率であるが、例えば、千葉は50%台となっており、首都圏の他市町と比較すると非常に高い加入率となっている。自治会は地域の互助会であり、今後も加入率に拘ることなく、助け助けられ、楽しく過ごせるコ

コミュニティづくりを今後も進めていきたい。

【委員】輸入の自由化が進み、農産物の価格低迷が今後も続く中、地産地消をどう進めていくかが重要である。特に都市農業基本法が施行されたため、具体的な取組を進めて欲しい。

生産基盤である水路や水門の老朽化がかなり進んでいる。インフラ整備、設備投資にはかなりの費用が掛かるので、長期的な計画で進めていく必要がある。

【委員】平塚市に住んでみて、つどいの広場や保健センターなど育児の相談がしやすく、子育てしやすい環境であると感じている。ただ、湘南地域の中で、平塚市は知名度が低いと思われる。海、山、川、お米や新鮮な魚がある。良いイメージを広めていけるのではないかと思う。市民生活の充実と市外から人を呼ぶことが大切である。

市民生活の充実では、三重県の自治体で実際に行っている施策として、4つあるとのことであった。まず1つ目は、自治体は包括的に相談を受け、福祉、子育て、障がいなどの分野縦割りではなく、全ての話を聴くことである。2つ目は、地域活動に参加しやすいまちにすることである。例えば、〇〇カフェとかまちの保健室とか子ども食堂を施策として進めている。3つ目は、近所の人への気づきが重要である。4つ目は自治体からの助成金で、年間700万円ほどある。

市外から人を呼ぶことについては、湘南ベルマーレの地元の応援が少なく感じる。スポーツを活性化するために、平塚市で湘南マラソン大会のようなイベントをもっと実施していくべきである。

聞きたいこととしては、中学校完全給食はいつから始まるか。また、小学校給食については、自校で給食を作っている学校もあれば、給食センターから運ばれてきて少し冷めてしまっている給食を提供している学校もあり、市内でも給食の提供方法に違いがある。できれば平等に（提供）できないか。

また、中学校では、全国で8人に1人は不登校の児童がいると言われているが、平塚市は不登校の児童生徒はどれくらいいるのか。保健室など教室に行けない子の受け皿はあるか。

先日、子どもと一緒に市の田植えイベントに参加し、子どもがとても楽しんでいた。例えば、漁船のクルーズ体験や釣り体験ができるイベントはないか。

【会長】今の質問については、後で事務局が回答するというところでよいか。

【事務局】そのとおりでよい。

【委員】高齢者が増えていく中で、ごみ出しひとつをとってもやはり地域での助け合いが重要と感じる。今の時代、70歳代でも仕事をしている方が多いので、なかなか自治会などの活動まで力が回らないのが現実かもしれないが、地域の活動もして欲しいと思う。子育てに関して、市中心部は公園も多いが、郊外は子どもの遊ぶ場が少ないので、公園整備なども進めてもらいたい。

また、働いている方だけでなく、病気などの理由で家庭での保育が困難な方も保育園で預かりたいが、それには保育士が必要となるため、保育士の確保を更に進めてもらいたい。

【委員】横浜市で生活していた経験からすると、平塚市は平地が多くて住み良い。

特に高齢者について、マンション、集合住宅など様々な環境において、買い物や通院などの様々な用途に使ってもらえる地域交通のネットワークを今から考えていく必

要がある。

子育てしやすいまちとあるが、それにはどうしても働く場が必要であり、企業誘致が重要だと考える。そのためには圏央道から平塚市につながるインフラ（道）整備が必要である。

【委員】人口の増減問題について、平塚市として人口をどうしたいかしっかりと打ち出すべきである。平塚市は商業・農業・工業とバランスの良いまちだが、バランスが良いだけに特徴が見出せないのが、どのように平塚市を打ち出していくかが重要である。Ｊリーグのサッカーチーム、ベルマーレが平塚市にあるということ、そして、そのことがどのような影響を与えているかということをもっと打ち出して欲しい。

また、中学校給食について、今まで様々な課題を調整してきた中で、今回思い切って実施に向けて踏み切った理由を教えてください。

【委員】資料9の分野別施策と重点施策の関係性、構成が良く分からない。K P Iの数値について、もっと高い目標を掲げ、取り組んでいくとともに、K P I自体の精査をして欲しい。

国や県の戦略を参考にしているということであれば、例えば、県の総合計画や市長の公約を参考資料として本審議会に出しても良いのではないかと思う。

総合計画の取組がS D G sのどの目標につながっているかを市民に分かるようにすることが必要である。

資料の中で色々な市民の意見があったが、エリア別に市民の意見を聴取しても良いのではないかと思う。

具体的に総合計画に入れてもらいたいこととしては、基本計画の中に南北軸という言葉が出てくるが、西部も人口が増えているので、南北軸だけでなく、西部地域も含めトライアングルになるような交通政策を考えて欲しい。

平塚市は障がい者にやさしいまち、福祉のまちだと思っているので、障がい福祉団体から（本審議会の）委員を選出しても良いのではないかと思う

【委員】振り返りに関して、「A評価」や「B評価」となったものについては、市内外へ積極的にPRしていくべきである。「C評価」や「D評価」となったものについては、更に加速させ、目標に到達するよう取り組んでいくべきである。

防犯や消費者被害の対策について、警察任せでなく、県と連携して市としてもっと積極的であることができるのではないかと思う。

浸水対策について、「100年に一度」の水害が「数年に一度」発生している。生命と財産を守るために、浚渫だけでなく堤防の整備も必要と考えるが、市では現時点で堤防の整備は考えていないようである。総合計画の中で、国や県と連携のもとに、更に進めるように対応してもらいたい。

少子化について、平塚市が他の自治体よりも少子化が遅れて進むようにできるのではないかと思う。特に、中学校給食は非常に多額のコストがかかるが、投資すべきものと考えている。

一方で、市では多額のハード整備を抱えており、整備をすれば当然に借金も増えるということを明示した方が良いとも考えている。

【委員】神奈川県は都市間競争が激しいと感じている。平塚市は、福祉・子育てが充実していると理解しているが、「これ」という特徴がないため、地域振興やにぎわい創出の観

点から、観光の強化や企業誘致が必要ではないかと思う。横浜のMM21では研究開発拠点になっており、職場環境だけではなく、(業務後に飲みに行くなどの)アメニティの充実・魅力が求められている。平塚市は自然もあり、(遊ぶところもある)「なまち」という打ち出しがあっても良いのではないかと思う。

【委員】浸水対策について、国で国土強靱化の3か年ということで河川の河床掘削や護岸整備の予算を増やしており、その予算を活用して進めているが、護岸の場合には用地を提供してもらう必要があることから、ハードの面は進まない現状がある。近年、温暖化が進んでおり、西日本のような豪雨が神奈川で発生すると、まずは避難してもらうしかない。ホームページで河川の水位や、カメラを設置して河川の状況が分かるようにしており、それらを活用して、まずは避難してもらうことが重要であるといったソフトの面を打ち出していく必要がある。

【委員】SDGsについて、県も力を入れて取り組んでおり、施策とSDGsのつながりを見えるようお願いしたい。EBPM(根拠に基づく政策立案)について、県の総合計画にどう反映するか試行錯誤している。そういった動きについても、関心をもって欲しい。

振り返りの中で、指標の評価でC評価とD評価のものについて、具体的にどうクリアしていくか明確な記載がない部分があった。「基本施策1 - 教育環境を充実する」の指標について、いじめ、不登校に関する指標のみでCと評価されてしまっており、違う分野の指標があっても良いのではないかと感じた。

転出者アンケートにおいて、治安が良くないと感じた市民が多かったようである。平塚市内で勤務するまたは勤務したことのある方々の話で、平塚市内の自転車の乗り方が良くないという感想を耳にすることが多かった。

圏央道や新東名の開通により、人やモノの動きが変わる。それを活かした計画づくりを進めて欲しい。

【副会長】物事は、「緊急度」と「重要度」という2つの視点があり、現計画を振り返ったときに、できたこと、できなかったこと、そして、すぐにしなければならないこと、時間をかけて進めていくことを整理して考えていく必要がある。別の会議ではあるが、待機児童を解消して、保育所の収容人数と、保育所に預けたい児童数を1.00(同数)にしたいという話があったが、失礼ながらそれはどうなのかと意見した。例えば、宿泊施設を稼働するとき、部屋の利用率が100%であることはあり得ない。何か部屋に支障があった場合に、代替の部屋を用意できるように、だいたい最大95%としている。そう考えると、保育所の収容人数は、市内で住み替えるであるとか、職場が変わったとかも考えると、保育所に預けたい児童数の1.02であるとか、1.05ではないのかと思う。他の委員の意見の中でも話があったが、待機児童対策、そして、そのための保育士の確保などは、本当に緊急課題である。また、改定基本計画について、どこまでの範囲をもって、どれだけの深さと具体性をもっていかとといった、幅と奥行きも考えていく必要がある。

平塚市の魅力について、他の委員から、平塚市は実際に住んでみて良いまちであるという意見があったが、本当の魅力というのは、100点では駄目だと思う。120点の評価がつかなかったら、完全ではないと思う。平塚市に住んでいる人が他の人を呼び込むよう声かけをしてもらえないようにならないと魅力発信としては不十

分であると思う。

【会長】まず、一委員としての意見としていくつかある。国で実施している「出生動向基本調査」の平塚版を実施し、出生の妨げとなっている要因や完結出生率が2～3人となっている人の属性を調べ、エビデンスを明らかにした上で政策立案するべきである。平塚市の婚姻件数が減ってきているため、婚姻数を増やす施策を講じるべきである。平塚版の「就業構造基本統計調査」を実施し、市民の「働き」（失業率など）を把握すべきである。国単位のデータではなく、市単位の調査が必要である。

企業誘致のための工業団地の整備が必要である。

国や県ともっと連携した施策展開が必要である。

都会の中の田舎、田舎の中の都会ということで、人口減少のスピードが遅いことから、人口減少に対する危機感が薄い。もっと危機感を持って対策すべきである。

出産後の施策はあるが、自然減(結婚)に対する施策がほとんどないので必要である。

まずは結婚、さらに(結婚した女性が転出しない様に)地元で結婚してもらおう施策が必要である。

待機児童が24人と聞いているが間違いはないか。

2040年の合計特殊出生率を1.8としているが、この数値と市の施策のつながりがみえない。

社会保障を支えるための女性労働・高齢者就労に対する施策がない。健康寿命の延伸にもつながる70歳まで働ける社会環境を整える必要がある。リカレント教育の方向性を打ち出すことも必要である。

団塊の世代が後期高齢者になる中、専門医からかかりつけ医へのつなぎ(移行)が必要である。

外国人労働者に対するワンストップ窓口も必要である。就職氷河期時代の世代に対する就労支援も頭に入れておく必要がある。

中学校給食については、女性の労働参加及びその負担軽減のための必要な措置であり、お金がかかっても実行すべきである。また、県もその助成をすべきである。

サッカーの特徴(ベルマーレ)を活かした観光と交流人口の増加が必要である。

交通網の整備と企業誘致が必要である。

学生の地元定着の面では、例えば東海大学の工学部と連携して、ベンチャー企業を興すことも考えられる。

今回の審議会での意見は、「少子化対策」「高齢化対策」「まちの活性化」に集約されるため、これらの意見を取りまとめて、次回提示していただきたい。

閉会

以上